苫小牧市美術博物館ニューズレター

美術博物館だより

News Letter From Tomakomai City Museum

No.1

March 2014
2014年3月発行

目　次
Contents

01 特集　リニューアルオープン
開館記念特別展 / 開会式 / 愛称 / ボランティア

02 クローズアップ　中庭展示
03/04 報告　平成 25 年度事業記録
04 活動紹介　教育普及活動について / クローズアップ　苫小牧自然さんぽ　その2
05 コラム　夢は形となった～開港 50 周年記念展からみえたもの～
05 ミニコラム① / ミニコラム②
06 コラム　展覧会余滴「 1 枚の写真～赤根谷理髪舘・2 階アトリエ」
06 勇武津資料館通信
07 館長コラム / 収蔵品紹介　展示室から
07 平成 26 年度展示会情報

特　集

リニューアル
オープン

苫小牧市美術博物館開館記念

出光美術館　日本陶磁名品選
～江戸時代前期の多彩な装飾世界～

■ 2013 年 7 月 27 日～ 8 月 25 日

作品解説を行う八波浩一氏 (出光美術館学芸課長代理)

平成 25 年 7 月 27 日㈯、市民待望の苫小牧市美術博物館が開館しました。こけら落としの特別展は「出光美術館　日本陶磁名品選－江戸時代前期の多彩な装飾世界－」でした。

本展では、スケールの大きさ、大胆な構図、雄勁な描線、深みのある色釉で、江戸時代の磁器の頂点ともいわれる古九谷を中心に江戸時代前期の多彩な装飾性あふれるやきもの 73 点を展覧いたしました。展示概要・主な出品作品、点数は以下のとおりです。

1. 絢爛（けんらん）たる大皿―五彩手の世界―：古九谷は日本の色絵磁器の黎明期を飾った重要な作品で、特に大皿が量産されました。なかでも緑・黄・青・紫・赤の五彩の上絵具で飾られたいわゆる「五彩手」と呼ばれる極彩色の大皿はその豪壮さで大名たちに珍重（ちんし）されました（色絵花鳥文大皿、色絵亀甲獅子（しし）花鳥文大皿、等 18 点）。

2. 絵画になったうつわ―中国画譜との関わり―：五彩手の魅力の一つに、いかにも一幅の絵画をながめるような深い味わいがあげられます。先行する中国磁器からの影響を受けながら、山水・人物・花鳥それぞれに雅味ある意匠が展開されています（色絵独釣文八角皿、色絵梅花鷺（うそ）文富士形皿、等 12 点）。

3. 躍動する絵模様―青手の世界―：俗に「青手」と呼ばれる一群の古九谷は緑と黄の二色を基調として、全体を色釉で包み込んだスタイルをとります。それはまさに五彩手の線を主体とした絢爛たる表現から、色彩を中心としたダイナミックな作風への転換でした（色絵茄子文大皿、色絵葡萄文大皿、等 21 点）。

4. 華やぎの世界―赤絵―：古赤絵風の文様の伝統を受け継いだ明末～清初の製品に倣ったと考えられるのが江戸時代前期の「赤絵」の作品群です。大皿などはあまり見られず、徳利や酒瓶、蓋物や壺などの器種が主体をなし、軽妙洒脱な作風が見どころです（色絵波兎地丸文蓋物、色絵紗綾文瓢形徳利、等 12 点）。

5. 侘びの世界―金銀彩・瑠璃（るり）釉・鉄釉・染付―：江戸時代前期に製作された色絵磁器は絢爛たる色彩構成によって眩いばかりですが、例外的に色絵を極端に押さえた金銀彩・瑠璃釉や、全くといって良いほど色絵を使っていない鉄釉・染付など、侘びた味わいを見せる一群も製作されています（瑠璃釉金銀梅花文瓢形徳利、染付楼閣山水文四方水指、等 10 点）。

会期中の 8 月 3 日㈯には、出光美術館から八波浩一学芸課長代理をお招きし、記念講演会「出光美術館の日本陶磁コレクションについて」を開催しました。古九谷の大皿に魅せられ、国内屈指の規模と内容を持つコレクションを作り上げた出光美術館初代館長の出光佐三氏の興味深い逸話をはじめ、本展出品作品についての懇切な解説をいただきました。

27 日という短い会期にもかかわらず、5,045 名もの観覧者が来館され、改めて古九谷の人気の高さがうかがえた特別展でした。

三村 伸（学芸員（主査）/美術）

開館記念展ポスター

開会式、華やかに

平成25年7月27日（土）午前、およそ200名のお客様をお迎えして苫小牧市美術博物館開館記念式典が行われました。式典は新設された研修室において主催者並びにご来賓の皆様のご紹介をした後、岩倉博文市長より式辞がありました。式辞のなかで、市長は開館に向けてご協力いただいた多くの方々に感謝を伝え、美術博物館は市民の意見を取り入れながら既存の博物館の建物を最大限生かしながら整備した施設であること、美術作品の鑑賞や地域を学ぶ企画展の開催を通じ、当市の文化芸術をこれまで以上に活性化し、若手芸術家の後押しをする拠点としての役割を果たすとともに市民に開かれた施設となることを期待している旨を述べました。

続いて開館記念特別展開催にご尽力いただいた出光興産株式会社代表取締役松井憲一副社長、出光美術館大和宏康館長代理よりご祝辞をいただきました。会場をラウンジ前に移動してテープカットが行われた後、八波浩一出光美術館学芸課長代理の解説により、同館が所蔵する貴重な美術品の数々を皆様にご鑑賞いただきました。

式典当日、新設されたラウンジでは市民管弦楽団の演奏が奏でられ、市の公式キャラクター　とまチョップが訪れ愛嬌を振りまくなど、お祝いムードに包まれ、午後からはPMF修了生によるフルートとハープの演奏会が開かれるなど終始和やかな雰囲気のなかで開館初日を迎えることができました。

愛称が「あみゅー」に

平成25年5月3日～5月24日まで、美術博物館が市民に長く親しまれ愛される施設とするため①博物館と美術館の複合施設であることを意識した②文化の交流・発信・創造の拠点としてふさわしい③平易で独創的な愛称を、公募しました

その結果、148点もの作品が市民から寄せられました。なかでも啓明中学校1年生からは92作品の応募があり、盛り上がりをみせました。10人の選考委員による第1回投票で51作品が残され、第2回投票で「あみゅー」、「とまみゅう」、「ミニコ」の3作品に絞られ、最終投票で5票を得票した「あみゅー」が愛称に決定しました。命名者は山村雅彦氏で「アートとミュージアムの融合で」という命名理由でした。

7月27日（土）の美術博物館開館式典で、岩倉博文市長から、最優秀賞者の山村氏をはじめ、入賞者2名高田麻実子氏、戸嶋智幸氏に表彰状と記念品が贈られました。

愛称入賞作品の表彰

ボランティアを募集しました

今年度より、展覧会の受付・監視ボランティアを募集しました。20代から80代までの37名の方々に、ご協力いただいております。今年度は、企画展「遠藤ミマン生誕100年記念　勇払原野を愛して」、「第7回北海道現代具象展」、「子どものための美術展　あなたのものがたり、わたしのものがたり」、「手で観るミュージアム　自然と造形の美」、「おはなしミュージアム」に携わっていただき、おかげさまで各展覧会を無事に実施することができました。来年度の展覧会においても、ボランティア活動をお願いする予定です。

テープカット

ロビーコンサート

クローズアップ
中庭展示

当館は、美術部門の基本理念のひとつとして「文化芸術活動の拠点としての美術館」を掲げています。平成25年度から美術博物館としてのリニューアルにあわせて開始した中庭展示事業では、1回目、2回目ともに市内で活躍する若手作家の作品を紹介しました。

第1回目に紹介したのは、田村純也（1978～）の《縷伝―rui―》です（展示期間：7月27日～9月10日）。黒いニスを塗布した合板を敷き詰め、そのうえに長さの異なる16本の石柱を円形に配した同作は、見るものに古代の遺跡や時間の流れを想い起こさせます。“繋がり”や“伝播”を意味する造語であるという作品名からも窺われるように、美術博物館の開幕を飾るにふさわしい作品でした。

第2回目に紹介したのは、藤沢レオ（1974～）の《不在の存在》です（展示期間：9月14日～11月3日）。中庭展示の空間を有効に活用した藤沢のインスタレーションは、複数のピンクの糸を放物線上に垂らすことにより、目に見えない重力や空気といった要素を視覚化しています。日常において見落としがちでありながらも大切な要素を再認識させる同作は、藤沢が一貫して扱ってきたテーマの延長線上にあるものといえます。

初年度の中庭展示は、市内の若手作家を紹介する貴重な機会となりました。今後は地元作家の紹介に限らず、特別展・企画展と連動させたり、選定作家の範囲を拡大したりするなど質の維持・向上を図り、文化芸術活動の拠点としてその発信に努めていきます。

細矢 久人（学芸員 / 美術）

上：田村純也《縷伝－ rui －》
下：藤沢レオ《不在の存在》

報　告

平成25年度 事業記録

展示事業

特別展

■苫小牧市美術博物館開館記念　出光美術館
**　日本陶磁名品選　～江戸時代前期の多彩な装飾世界～**

会期：7 月 27 日 (土) ～ 8 月 25 日 (日)
入場者：5,045 名
特別協賛：出光興産株式会社
出品協力：公益財団法人出光美術館
後援：苫小牧商工会議所 / 出光興産株式会社北海道製油所 / 苫東石油備蓄株式会社苫小牧事業所 / 北海道石油共同備蓄株式会社北海道事業所 / 北海道新聞苫小牧支社 / 苫小牧民報社
協力：苫小牧美術協会、苫小牧陶芸協会
①美術博物館開館セレモニー
日：7 月 27 日
②記念講演会「出光美術館の日本陶磁コレクションについて」
講師：八波浩一氏 (出光美術館　学芸課長代理)
日：8 月 3 日 (土)
参加者：91 名
③ Music in Museum by 出光 (主催：出光興産株式会社)
日：8 月 10 日 (土)
参加者：800 名
④作品解説会
日：8 月 4 日 (日)、11 日 (日)、18 日 (日)
参加者：103 名
⑤夏休み！子どもウィーク
会期：8 月 13 日 (火) ～ 16 日 (金)
対象：小中学生 (参加者：122 名)

企画展

■遠藤ミマン生誕 100 年記念展　勇払原野を愛して

会期：9 月 7 日 (土) ～ 9 月 29 日 (日)
入場者：3,300 名
出品協力：土田なぎさ氏
後援：苫小牧美術協会
①講演会「遠藤ミマンと全道展の仲間たち」
講師：吉田豪介氏 (美術評論家、前市立小樽美術館長)
日：9 月 16 日 (月・祝)
参加者：80 名
②美術ＤＶＤ鑑賞会
日：9 月 23 日 (月・祝)
参加者：25 名
③ギャラリーツアー
日：9 月 7 日 (土)、14 日 (土)、21 日 (土)、28 日 (土)
参加者：227 名
④わくわくギャラリーツアー＆ワークショップ
日：9 月 21 日 (土)
対象：小中学生 (参加者：18 名)

■苫小牧港開港 50 周年記念展　夢を形に
**　～砂浜と原野にいどんだ時代～**

会期：10 月 12 日 (土) ～ 11 月 24 日 (日)
入場者：3,121 名
後援：北海道開発局室蘭開発建設部苫小牧港湾事務所 / 苫小牧港管理組合 / 苫小牧港開発 50 周年記念事業実行委員会
協力 / 苫小牧港開発株式会社 / 苫小牧埠頭株式会社 / 苫小牧信用金庫 / 株式会社志方写真工芸社 / 一般財団法人日本埋立浚渫協会
①港の歴史フィルム上映会～人造港　苫小牧～
日：10 月 12 日 (土)、11 月 23 日 (土)
参加者：80 名
②展示解説会
日：10 月 20 日 (日)、11 月 17 日 (日)
参加者：41 名

■第 7 回北海道現代具象画展

会期：12 月 10 日 (火) ～ 12 月 23 日 (月・祝)
入場者：748 名
①作品解説会
日：12 月 23 日 (月・祝)
参加者：60 名

■子どものための美術展　あなたのものがたり、わたしのものがたり

会期：1 月 11 日 (土) ～ 2 月 16 日 (日)
入場者数：1,721 名
①ワークショップ
「絵本のとびらを描こう～絵本の表紙はおはなしのはじまり」
講師：河野健氏 (画家)
日：1 月 11 日 (土)
参加者：21 名
②よみきかせ in ミュージアム
日：1 月 13 日 (月・祝)、2 月 1 日 (土)
対象：未就学児以上 (参加者：40 名)
協力：苫小牧市中央図書館
③わくわくギャラリーツアー
日：1 月 25 日 (土)、2 月 8 日 (土)
対象：小中学生 (参加者：46 名)
④企画展アウトリーチ事業「みゅーじあむ in すくーる」
招聘作家：藤沢レオ氏 (彫刻家)
対象：市内小中学校 (実施校：小学校 3 校、中学校 2 校)

■おはなしミュージアム

会期：3 月 1 日 (土) ～ 3 月 30 日 (日)
協力：森林総合研究所　北海道支所 / 北海道大学苫小牧研究林 / 北海道立図書館 / 室蘭市民俗資料館 / ＮＰＯ苫東環境コモンズ / 苫小牧市サンガーデン / 苫小牧市教育研究所 / 苫小牧市立中央図書館 / 竹内庸輔氏 / きくちあやこ氏
①縄ないにチャレンジ！
講師：谷中聖治氏 (室蘭市民俗資料館　学芸員)
日：3 月 2 日 (日)
協力：苫小牧市博物館友の会
②展示解説会
日：3 月 1 日 (土)、3 月 2 日 (日)
③おはなしクッキング～きびだんご (黍団子) をつくろう
日：3 月 15 日 (土)、3 月 16 日 (日)
④わくわくギャラリーツアー「ものがたりの世界へようこそ」
日：3 月 8 日 (土)、3 月 9 日 (日)、3 月 23 日 (日)
対象：小中学生
⑤ミュージアムシアター「まんが日本昔話」
日：3 月 21 日 (金・祝)

■手で観るミュージアム　自然と造形の美

会期：3 月 1 日 (土) ～ 3 月 30 日 (日)
協力：図書館点訳ボランティア「このゆびとまれ」
①プレワークショップ「縄文レリーフをつくろう」
講師：堀部江一氏 (陶芸家)
日：2 月 11 日 (火・祝)
参加者：14 名
②ギャラリーツアー「タッチ＆トーク」
日:3 月 1 日 (土)、3 月 2 日 (日)、3 月 8 日 (土)、3 月 9 日 (日)、3 月 23 日 (日)
③縄文太鼓パフォーマンス＆ワークショップ
講師：茂呂剛伸氏 (縄文太鼓・ジャンベ太鼓演奏家)
日：3 月 1 日 (土)

中庭彫刻展

■中庭展示 vol.1　田村純也

会期：7 月 27 日 (土) ～ 9 月 10 日 (火)

■中庭展示 Vol.2　藤沢レオ

会期：9 月 14 日 (土) ～ 11 月 3 日 (日)

その他

■美術博物館開館プレ企画展

会期：7 月 6 日 (土) ～ 7 月 21 日 (日)
入場者：783 名

普及事業

■博物館大学講座
対象：一般 (登録者数：150 名)
①「北前船と北海道」北海道北前船調査会 主宰　土屋周三氏
②「収集・展示の歴史と新しい美術博物館の役割」
北海道大学大学院 准教授　谷古宇尚氏
③「苫小牧・日本・世界のれんが～れんがの来た道～」
北翔大学 教授　水野信太郎氏
④「苫小牧のタンポポ・外国からきたタンポポ」
苫小牧市美術博物館 学芸員　小玉愛子
⑤「鳥獣採集家・折居彪二郎」
北海道大学北方圏フィールド科学センター 助教　加藤克氏
⑥「私の芸術～北の風土から心象の世界へ～」
全道展 会員　野本醇氏
⑦「奈良平安時代の日本と北海道産コンブ」
苫小牧駒澤大学 教授　箕島栄紀氏
⑧「日高山脈と形成の蛇紋岩」
日高山脈博物館 学芸員　東豊土氏
⑨「苫小牧の遺跡」　苫小牧市美術博物館 主査　赤石慎三

■郷土学習
会期：9 月 4 日 (水) ～ 11 月 27 日 (金)
対象：市内小学校 23 校

■博物館クラブ
対象：小中学生 (登録者：13 名)
①開校式　博物館を描こう
②ふるさと海岸で漂着物を探そう
③ハマナスジャムをつくろう
④絵具職人になってみよう
⑤ポンポン船をつくろう
⑥勾玉をつくろう　終了式

■土曜体験教室
①宮沢賢治の世界をアートする
日：5 月 18 日 (土)　参加者：10 名
②ガリ版をつかおう
日：8 月 24 日 (土)　参加者：10 名
③年賀状をつくろう
日：12 月 14 日 (土)　参加者：12 名
④土版をつくろう
日：1 月 11 日 (土)　参加者：22 名

■ワークショップ「鉄たたこう」
講師：藤沢レオ氏 (彫刻家)
会場：工房ＬＥＯ (苫小牧市樽前)
日：9 月 29 日 (日)　参加者：14 名

■技法講座
①シュールなコラージュ☆
日：10 月 14 日 (月・祝)　参加者：24 名
②デッサン in ミュージアム
日：3 月 22 日 (土)

■サイエンスカフェ
日：11 月 4 日 (月・祝)　参加者：14 名
講師：伊庭靖弘氏 (北海道大学大学院　助教)

■無料開放日
①ゴーゴー博物館　日：5 月 5 日 (日)　参加者：815 名
②秋のあみゅー祭　日：11 月 3 日 (日)　参加者：1,006 名

■見学会・観察会
①自然観察会　日：9 月 21 日 (土)　参加者：22 名
②歴史見学会「苫小牧港の今と昔」
日：10 月 26 日 (土)　参加者：16 名
場所：苫小牧西港フェリーターミナル
協力：苫小牧港開発株式会社
③芸術探訪　日：11 月 9 日 (土)　参加者：26 名

■びとこま
対象：小中学生 (登録者：16 名)
広報誌『びとこま』発行：5 回
協力：樽前 arty ＋

■出前講座
実施：18 件
(平成 26 年度 2 月末現在)
※各事業の入場者・参加者数は平成 26 年 3 月 1 日現在のものとする。
※展示事業一覧は、企画展名、会期、入場者数、関連イベントを記載。
※明記の無い事業の主催は全て当館 (苫小牧市、苫小牧市教育委員会) による。
※協力等は該当事業のみ記載
※講師未記載は全て当館学芸員が担当。

平成 25 年度は特別展「出光美術館　日本陶磁名品選～江戸時代前期の多彩な装飾世界～」を皮切りに、その後美術館機能の新設にあわせて、美術展を中心に 5 本の企画展を開催致しました。美術部門では、苫小牧の美術振興に尽力した遠藤ミマンの画業を紹介する「遠藤ミマン生誕 100 年記念展　勇払原野を愛して」、親子で楽しみながら美術の豊かな広がりに触れてもらうことを目指した「子どものための美術展　あなたのものがたり、わたしのものがたり」、作品や資料に手で触れながら鑑賞できる「手で観るミュージアム　自然と造形の美」を開催しました。

博物部門では、港の築成の様子を写した写真等貴重な資料の数々が紹介した「苫小牧港開港 50 周年記念展　夢を形に～砂浜と原野にいどんだ時代～」、昔話に登場する民具や生物などを通して先人の暮らしに触れる「おはなしミュージアム」を開催。来年度以降も様々な展示会開催を予定しています。

活動紹介
教育普及事業について

博物館や美術館では作品や資料についての理解を深めるきっかけになるような様々な普及事業を行っています。当館でも、年間を通して学びを深められる博物館クラブや、毎年定員を超える申し込みのある博物館大学講座など人気の事業を展開しています。その他、土曜体験教室、出前講座や展示会ごとの関連行事など様々な普及事業を行っています。また、出前授業や郷土学習等学校利用への対応も続けています。

今年度、美術部門でも展覧会ごとに様々な関連イベントを行いました。夏休み子どもウィークや企画展「手で観るミュージアム 自然と造形の美」の関連イベント等では、参加者が展覧会を観て楽しむだけではなく、直接参加できるようなギャラリーツアーを開催しました。ワークショップ成果作品をラウンジに展示し、参加できなかった来館者の方々にもイベントの様子を楽しんでいただきました。また、本年度美術部門では新たに、企画展アウトリーチ事業「みゅーじあむ in すくーる」に取り組みました。企画展出品作家の藤沢レオ氏にご協力いただき、ご応募いただいた市内小中学校で作品鑑賞の授業を行いました。

当館では、今後も幅広い層に向けて様々な普及事業を展開していきます。

福田 絵梨子（学芸員 / 美術）

ラウンジでのワークショップ

クローズアップ
苫小牧自然さんぽ　その２～支笏湖・樽前の森をめぐる～

錦大沼公園の散策

9 月 21 日、昨年度に続き、苫小牧の自然を学ぶフィールド散策を行いました。テーマは“樽前山”と“植生”。樽前ガロー、口無沼や支笏湖畔にて、火砕流堆積物や地形観察から、樽前山の火山活動の歴史をたどりました。そして、それぞれのポイントの周辺に広がる広葉樹林の森を歩き、苫小牧特有の植生を観察しました。今回は様々な角度から樽前山を目で見て、手でふれ、学び、苫小牧の自然を身近に感じていただけたかと思います。来年度も第 3 弾としての企画を計画しています。ぜひご参加ください！

宮地 鼓（学芸員 / 地球科学）

コラム

夢は形となった～開港50周年記念展からみえたもの～

苫小牧港が開港した1963（昭和38）年4月、苫小牧市の人口はおよそ7万5千人でした。それから半世紀以上が経過した現在、17万4千人の人口を抱え、年間取扱貨物量1億トンを超え全道一の港を持つ街として成長を遂げました。開港当時、本州への石炭の積み出し港としての役割しかなかったことを振り返ると、この50年間での大きな飛躍に驚くとともに、開港に向け惜しみない努力を傾注した先人への敬意が募ります。苫小牧港開港50周年企画展「夢を形に～砂浜と原野にいどんだ時代～」では、築港前史として江戸時代から勇払地方が北前船の入湊地として使われてきた史実を導入として、大正時代の勇払築港論、戦前の港湾計画、開港までの記録写真や港湾を描いた絵画作品・船舶模型などを展示しました。資料調査にあたっては、市立中央図書館に保管されている港湾建設に関する膨大な行政資料や署名、建設図面などを閲覧し、砂浜を掘り込むというかつて誰もが成し得なかった港づくりの理想に向かった多くの人々の献身的な努力を知ることができました。また、準備から開催期間を含め、既に故人となった港湾技術者や行政関係者、記録写真を撮り続けた写真家の遺族や実際に建設作業を行った方から貴重なお話を伺うことができたことは、企画立案の参考とさせていただくとともに、大きな喜びを味わうことができる瞬間でもありました。展示した文書や機械、写真などを立証する肉親や当事者の言葉に圧倒され、世紀の大事業とされた苫小牧港建設を推進したのは、まぎれもなく有名、無名の人々の情熱であったことが実感できました。今回の展示を通じて、地域の歴史を保存し伝えることの重要性を再認識する一方、自らの力不足から紹介すべき幾つかの点をカバーしきれなかったことが心残りです。ただし、苫小牧港の歴史は半世紀が経過したばかり、この後、開港100年を迎える際には引き継がれた資料を活用して、その時代の学芸員が「開港100周年企画展」としてより充実した内容で取り上げてもらうことを切に願っています。

武田 正哉（学芸員（主査）/ 歴史）

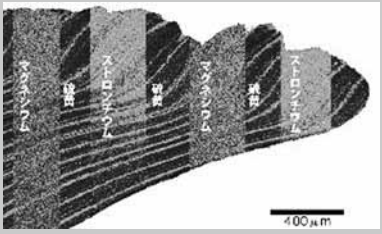
展示会場の様子

ミニコラム①

地球上で最も長寿命の動物は何か知っていますか？それは、北大西洋に生息している二枚貝、“アイスランドガイ（*Arctica islandica*）”で、500歳を超えるものが見つかっています。見た目も大きさもウバガイ（ホッキガイ）によく似ています。二枚貝類の貝殻には、樹木と同じように年輪が刻まれます。近年では、アイスランドガイの年輪と貝殻の化学分析を組み合わせて、過去の環境を復元する研究が多く行われています。このアイスランドガイ貝殻の詳細な分析から、殻中の微量元素組成比が貝殻の結晶構造や有機物濃度によって変化することを、東京大学とドイツ・マインツ大学との共同研究によって世界で初めて明らかにしました（図）。本研究によって、本種の生態や古気候復元ツールとしての有用性についての重要なデータが得られました。

Shirai, K., Schöne, BR., Miyaji, T., Radarmacher, P., Krause Jr RA. and Tanabe, K. (2014) Assessment of the mechanism of elemental incorporation into bivalve shells (*Arctica islandica*) based on elemental distribution at the ultrastructural scale, Geochimica et Cosmochimica Acta, 126, 307-320.

宮地 鼓（学芸員 / 地球科学）



アイスランドガイ貝殻断面の微量元素分布

ミニコラム②

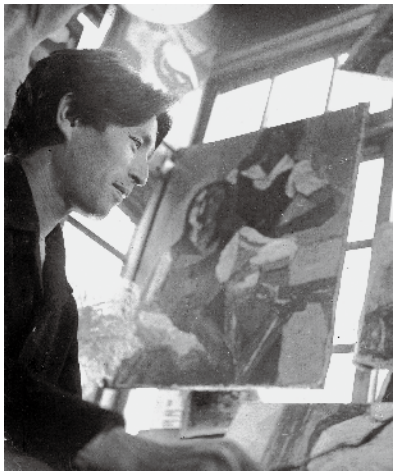
苫小牧のタンポポの分布調査を、苫小牧市博物館友の会の方たちと一緒に2010年から継続しています。よく知られている外来種の「セイヨウタンポポ」の他にも「エゾタンポポ」「シコタンタンポポ」の2種類の在来種のタンポポが市内では確認されています。エゾタンポポは明るい林の中や丁寧に刈り込みされた緑地に単立して生えていることが多く、シコタンタンポポは海岸沿いの明るい場所や、砂浜に近い環境で群生して見つかることが多いです。本州では、カンサイタンポポがセイヨウタンポポから受精の段階で繁殖干渉を受けていることが報告されており（西田ほか,2013）、苫小牧でも、セイヨウタンポポとシコタンタンポポ、エゾタンポポが混在している環境では、何らかの干渉を受けている可能性があります。「タンポポ」は身近な植物ですが、そこから、植物の「せめぎあい」や「したたかさ」を、垣間見ることができます。

小玉 愛子（学芸員 / 生物）

参考文献：西田佐知子・金岡雅浩・橋本佳祐・高倉耕一・西田隆義（2013）繁殖干渉における花粉―めしべ間の相互作用：在来タンポポ2種における外来種花粉の花粉管伸長（英文）,Functional Ecology

シコタンタンポポ（2013年6月10日撮影）

展覧会余滴「1枚の写真～赤根谷理髪舘・2階アトリエ」


「赤根谷理髪館」アトリエの遠藤ミマン

企画展「遠藤ミマン生誕100年記念展　勇払原野を愛して」の準備のため、土田なぎさ氏（遠藤満男3女）宅を幾度も訪問しました。遠藤ミマン（1913～2004、国画会会員、全道美術協会会員、苫小牧美術協会会長）は、苫小牧の美術振興・発展、そして美術博物館誕生の最大の功労者でした。

土田さん宅には、几帳面かつ記録魔的な遠藤先生らしく、戦前戦後の日記や写真、各種スクラップブックなど厖大な資料が残されていました。なかでも、1941年の国画創作協会展に出品した《蝶と芒》が初入選したことを報道する新聞記事は、芸術へ邁進する遠藤先生の第一歩を語る貴重な発見でしたが、私的にも溜飲を下げる発見がありました。

戦前に遠藤先生が下宿していた（1935～45頃）「赤根谷理髪舘」の2階のアトリエを写す1葉の写真です。というのも、以前から郷土の画家・能登正智（まさとし）（1922～2001）のあるエッセイの一節が気にかかっていたからです。

「苫小牧に来て、一番さきに出会ったのは、遠藤未満先生であった。そのころ、未満先生は大通りの「アカネヤ理髪舘」の二階に住んでいた。未満先生と知り合ったのはこの前年で、札幌の独立美術の夏期講習会であった。やっと絵らしいものを描くようになった私には、まぶしいくらいの先輩であった。（中略）アカネヤ理髪舘の二階の未満先生の部屋には、4号くらいの上半身の人物画がずらりと並んでいた。それはみな、戦争に連れて行かれた、教え子の肖像であるという。（後略）」（版画と私　能登正智　②遠藤未満先生（1984年11月8日、北海道新聞）より）。

長い間、この遠藤先生のアトリエの様子を語る写真を探していたのでした。この写真には確かに赤根谷理髪舘の特徴のある縦長の窓が背景に写っています。この部屋で《真昼の路》、《つるばらの門》、《蝶と芒》等々の戦前の秀作群が生まれたのでした。写真の状態も良好で制作現場の臨場感がよく伝わってきます。なによりも遠藤先生が若々しい。

早速企画展で使用させていただきました。他にも「赤い帽子」の発見など、遠藤先生からの“恩寵”をたくさん感じた展覧会でした。なお余談ながら、この理髪舘は改修を重ねながら、現在は有名なやきとり店として営業中です。

三村 伸（主査／美術）

勇武津資料館通信

ふるさと歴史講座は①「勇払越えについて」（10月）②「弁天貝塚の思い出」（1月）③「勇払原野の画家たち」（2月）の3回が開催されました。

「勇払越えについて」は、「～勇払から石狩への水路と陸路～」の副題で、苫小牧郷土文化研究会の宮夫靖夫副会長が勇払の地名、アイヌ語の「イ･プッ」を「イ」が奥地の千歳や石狩を指すことが古くから知られていることから、研究会が平成23年度から取り組んでいる「勇払から石狩への道」というテーマに基づいた3ヵ年の古道調査の中間報告としてお話していただきました。

「勇佛會所之跡」を調査のスタートとした研究会の一行が、松浦武四郎の『西蝦夷日誌』などにある「舟着場」や、美術博物館に展示されている「アイヌの丸木舟」の出土地点（旧勇払川河岸）などを経て、植苗・美々・千歳までのアイヌの踏み分け道・馬車道などについても踏査したことが報告されました。

一般市民も参加して実施しているこの踏査が、今後、石狩までの経路で、新たな発見・確認が期待されるところです。

生活体験教室は8回開催しました。5月5日こどもの日の、昔のあそびをしようから始まり、縄文時代の勾玉などのペンダントづくり、勇払に千人同心がいたころの食事を考える数年ぶりに復活した五穀おにぎりづくり、子どもにはちょっと硬すぎましたが、シカの角で釣り針づくり、石にいろいろな絵をかく、定番となった石臼をひいてそばがきをつくる、かるたとすごろくで遊ぶ、大昔の食べ物の保存方法を体験するくん製づくりなど、資料館職員が講師になって、古い時代の遊びや食べ物を体験してもらうために行いました。

全体では、子どもから大人まで105人の参加がありました。シカの角での釣り針づくりは、大人と子どもで20人近くの参加がありましたが、事前に数本のシカの角を丸ノコ盤や鉄切りノコなどで切断・加工しておいても、小学生にはきびしかったようです。昔の人たちの道具づくりが大変だったことが感じられたようでした。それでも中には、お父さんと一緒にこの釣り針を使って魚を釣ってみるという子もいました。乞うご期待、というところでしょうか。

二階堂 啓也（勇武津資料館　嘱託事務員）

上：勇払越えについて解説する宮夫靖夫氏
下：シカの角での釣り針づくりの説明を聞く参加者

館長コラム

平成25年７月27日、市民待望の美術館が博物館に併設し「苫小牧市美術博物館」として開館しました。関係者や市民の皆様約200人が参加するなかで開館記念式典が盛大に行われ、参会者のなかには、歓声を上げる方や感極まり涙ぐまれる方の姿が見られました。この瞬間を迎えるまでに、どれほどの多くの市民の方々が動き、願い、そして実現を待ち望んでいたことでしょう。美術博物館は、「樽前山、勇払原野の自然と文化」をメインテーマとした博物館に、「市民に開かれた美術館」「子どもたちの感性を育む美術館」「文化芸術活動の拠点としての美術館」を基本理念とした美術館を加え、複合施設ならではの展示会をはじめ、より一層楽しめて学べる各種事業を実施したいと考えております。今後ともご支援をよろしくお願い申し上げます。

荒川 忠宏（館長／地質）

平成26年度 展示会情報

特別展
青森県立美術館コレクション展

７月19日(土)～９月15日(月・祝)

青森県立美術館
メインエントランス

企画展

■**美沢川流域の遺跡群～美々・美沢～**
５月３日（土）～６月８日（日）

■**宮沢賢治の世界をアートする 2014**
５月３日（土）～６月29日（日）

■**こどもとおとなの美術展（仮称）**
９月27日（土）～11月３日（月・祝）

■**浮世絵の魅力・三代豊国《誠忠義士傳》**
11月15日（土）～12月14日（日）

■**苫小牧の美術史～苫小牧美術協会のあゆみ～**
12月23日（火・祝）～１月25日（日）

■**アイヌ文化を育んだ自然（仮称）**
２月７日（土）～３月22日（日）

中庭展示

■ **vol.3 首藤晃**　５月３日（土）～８月17日（日）
■ **vol.4 千代明**　９月27日（土）～１月25日（日）

※展覧会の名称及び内容、時期等は予告なく変更する場合があります。ご了承ください。

収蔵品紹介
展示室から

展示室の２階は歴史関係の展示になります。１階から階段を上ってすぐの所に、人類の進化についての展示があります。開館当初からあったものを再利用して、最近の研究成果を基に更新しました。古くは、猿人・原人・旧人・新人と一直線に進化してきたと考えられていました。現在では、古いヒトは絶滅し、新たなヒトが出現し、それぞれに繋がりはないと考えられています。ダーウィンが「人間とサルとをつなぐ鎖の環となる化石が欠けている」と述べたミッシング・リング（失われた環）も現在では700万年前の人類化石が発見されるなど、大きく進歩しています。

地球上に、いつ頃、どの地域に人類が広がっていったのかという展示パネルも更新しました。それまでは、地図上に化石発見地や遺跡などが数多く表示され、直感的に分かりにくいものでした。矢印と年代で、人類の拡散の様子を示すことで、より分かりやすいものとなっています。

赤石 慎三（主査／考古）

■編集後記

いよいよ苫小牧市美術博物館が開館となりました。第１号は学芸員によるコラムを増やし、盛りだくさんの内容となりました。刊行物はホームページに公開していく予定です。（福田）

苫小牧市
美術博物館だより

平成26年３月31日発行・第１号
編集・発行：苫小牧市美術博物館　〒053-0011 苫小牧市末広町３丁目9-7
TEL 0144-35-2550　FAX　0144-34-0408
URL http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/hakubutsukan/

[表紙写真] 苫小牧市美術博物館外観 / 開会式 / 開館記念特別展展示風景 / 開館記念特別展記念講演会風景